

ヤマブドウ

1. 原生地と産地形成

1) 原生地

ヤマブドウは、アジア野生ブドウの1種でわが国の北海道、東北、中部、四国の山林中に自生し、特に寒冷の気候を好み耐寒性は強い。また、他のアジア野生ブドウとしてエビヅル、サンカクヅルがわが国各地の山野に自生している。このうち、果樹として栽培されているのはヤマブドウだけである。

2) わが国における栽培状況

ヤマブドウは酸味が強く、糖度が高く、鮮やかな色合いを活かしたワインに加工すべく山形県朝日村で取り組みを始めたのは昭和47年である。その後、各県で小規模に栽培されている。

平成15年には栽培面積135.6ha、主産県は岩手県88.6ha、青森県13.0ha、秋田県10.5ha、山形県8.6ha、長野県5.0ha等である。

2. 分類と品種

ヤマブドウはブドウ属に属し、学名は *Vitis coignetiae* Pulliat ex Planch である。

種苗登録をしているものはないが、山に自生しているものから品質のよい2系統が選抜され、‘朝日1号’‘朝日2号’と命名された。

○朝日1号

果房が150g程度と大きく、着粒が密着し1粒重が約0.9gで小粒である。収穫期は9月下旬～10月上旬で、果皮は黒紫色となる。新梢の伸びはやや短く、収穫期に近づくと葉が紅葉する。

○朝日2号

果房が130g程度と大きく、着粒は粗く、1新梢当たり3房着房するものが多い。新梢の伸びは‘朝日1号’に比べてやや旺盛である。

3. 形態と生理・生態

ヤマブドウは雌雄異株で、雌株の花の雌ずいは完全であるが、雄ずいは不完全で湾曲下垂しており、花粉発芽力がほとんどない。雄株の花は雌ずいが発育を停止して退化している。自生樹におけるヤマブドウの雌株の比率は、30%前後で、雌株は少ない。

雌株系統の枝及び葉の形態は次のとおりである。新梢の節部はやや平坦で断面は平滑な溝状、相接する節間は直線状で枝の一部に灰褐色の柔毛がある。

葉身の縁辺は小さい耳形鋸歯で、表面は無毛で光沢のある濃緑色である。裏面は灰褐色の短い絨毛で覆われている。先端から第5葉あたりまでの葉の表面に灰褐色の絨毛があり、葉肋も裏面は絨毛で覆われている。

4. 栽培管理

山形県の場合を例にとる。

1) 整枝・剪定

仕立て方は垣根仕立てとし、冬期には積雪深 2m にもなるため、剪定後 12 月に垣根を地面に倒し、消雪時の 4 月に再び立て直す。栽植距離は 2.5m×4m とし、10a 当たり 100 本植えとする。

整枝は一文字整枝とする。長梢、短梢の結果母枝を組み合わせ、主枝、亜主枝の基部と長梢の結果母枝の手前には必ず予備枝を取る。結果母枝の長さは花芽、枝の充実度合いによって決めるが、長梢では 10～15 芽、短梢では 2～5 芽を目安に切り返す。

植え付け 3 年目で結果母枝 5～6 本、5 年日以降成木では 8～10 本が適当である。剪定時期は 11 月上・中旬である。

ヤマブドウは副梢の発生が多いので夏期剪定を行う。その時期は、落花 10 日後位から 7 月下旬までの 1 カ月間で、副梢を葉 1～2 枚残して剪除する。なお、樹勢が強い樹の場合、株元から伸びた徒長枝は除去しないでそのまま放置し、樹勢調節の役目をさせる。

2) 誘引と芽かき

消雪後の 4 月上旬に第 1 支線及び第 2 支線に主枝、亜主枝、結果母枝を誘引するが、誘引の際に注意すべきことは各枝先を曲げて誘引し止めることである。こうすることにより、枝全体の発芽が良好になる。新梢の誘引は 5 月中旬より行い、第 3 支線より上に伸長させる。

枝の充実と樹形を整えるために、棚下の不安芽の芽かきは早めに行う。結果母枝の芽かきは、特に必要な場合以外は行わない。

3) 人工受粉

ヤマブドウは雌雄異株であるため、雄株の混植が不可欠であるが、年によっては雄株の開花期が早まり、うまく受粉できないことがある。その場合人工受粉を行う。なお山に自生しているヤマブドウは雄株の割合が圧倒的に高い。

4) 肥培管理と病虫害防除

10 月下旬に 10a 当たり乾燥鶏糞を 40～60Kg 表面散布し、他に土壤改良のために籾殻、堆肥をたこつぼあるいは溝を掘って投入する。

主要病害として、黒とう病、晩腐病、開花前後の灰色かび病、うどん

こ病、褐斑病等が発生する。害虫としては、ブドウトラカミキリ、生育初期にクロヒメゾウムシ、コガネムシ類、ブドウトリバが加害し、収穫期にはハチの被害がある。

5. 消費

良質ワイン作りにとって、糖度が高いこと、着色がよいことが重要である。そこで、糖度測定を行い、17度以上になった時点で収穫を行う。

ヤマブドウはワインとして多く利用されているが、他にヤマブドウ原液として手作りジュース、シャーベット等に利用される。